

## ゲージとは...

同じ編み図、同じあみ針、同じ毛糸を使って編んでも、人によって編む手の力の強さが違うため、仕上がりのサイズがそれぞれ異なってしまいます。

誰が編んでも同じサイズに仕上がるよう、一辺10cmの四角形の中に、いくつ編み目が入るか指定するために試し編みしたものを「ゲージ」と呼び、編み図には必ず「目数×段数」で表示されています。

1. 毛糸とあみ針を用意し、長さが約20cmになるまで1段目に作り目を作ります。

2. 2段目からメリヤス編を編みます。

## メリヤス編

表面から見ると全て表編でできあがっている編み地のことをいいます。

2-1. 作り目のある針を左手に持ちかえて2段目を裏編で編みましょう。

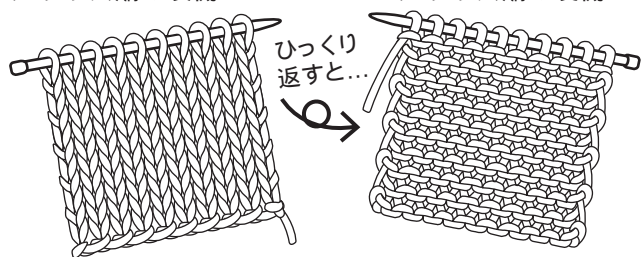
2-2. 2段目が編み終わったら、針を持ちかえて3段目を表編で編みましょう。

偶数段は裏編、奇数段は表編、その繰り返しがメリヤス編です。

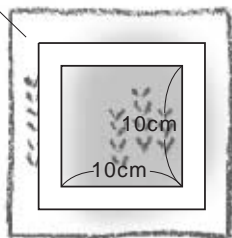
2-3 高さが約20cmになるまでメリヤス編を編みます。

メリヤス編の表側

メリヤス編の裏側

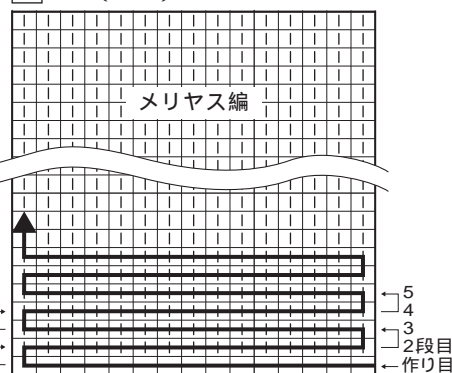


ゲージ



編み地は一段ごとにひっくり返しながら編み、編み図はジグザグに上へ向かって編み進めます。

□ 表目(表編)の記号

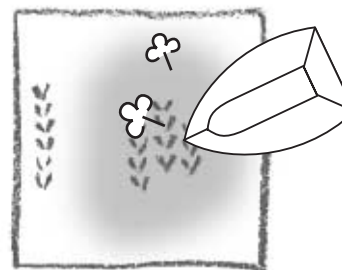


## POINT

仕上ってからメリヤス編の裏面を見ると、全て裏目になっていることがわかります。表目も裏目も実は同じ一つの編み目であり、表面から見たものを「表目」と呼び、裏面から見たものを「裏目」と呼んでいるだけなのです。

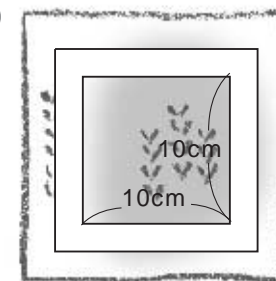
3. ゲージをはかりましょう。

1



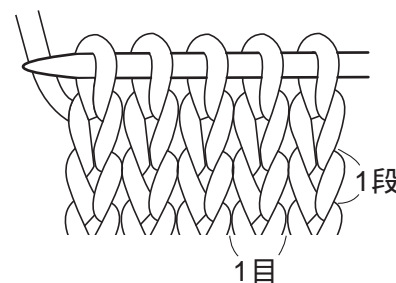
編み目をつぶさないようにスチームアイロンを軽くかけます。  
(注: 編み地にアイロンを直接付けずに浮かせてかけます。)

2

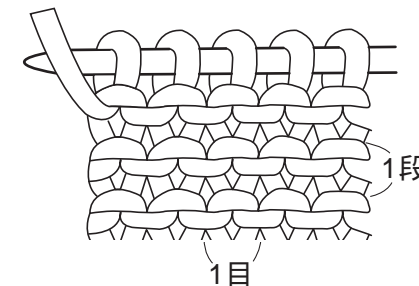


平らな場所に置いた編み地の中央の10cm角に、何目・何段あるかをはかります。

## 編み目の「目」と「段」の数え方



表目は「V型」の編み目を1目、1段と数えます。



裏目は「U型」の編み目を1目、1段と数えます。

指定のゲージに合わない場合は...

ゲージがゆるいとき ➡

指定のゲージより目数が少ないのが、ゆるいゲージです。この場合、あみ針を1～2号細めに選んで編み直します。

ゲージがきついとき ➡

指定のゲージより目数が多いのが、きついゲージです。この場合、あみ針を1～2号太めに選んで編み直します。